

三稜

<http://www.ebetsu-city.ed.jp/daisan-t/>

令和7年2月26日発行

— 校訓 —
 敬愛 責任 勤労
 「勤労を貴び、責任ある行動をし、敬愛される人になろう」

— 学校教育目標 —
 ・意欲的に学習に向かい、粘り強く課題を追求する生徒
 ・自他を敬愛し、豊かな心をもつ生徒
 ・物事を正しく判断し、責任ある行動がとれる生徒
 ・働く喜びを感じ、心身ともに健康な生徒

保護者アンケートの結果について

12月に保護者の皆様にご協力いただいたアンケートの結果をお知らせします。回収率は目標の70%には届かず、58.7%となりました（前回7月67.4%）。保護者の皆様のご意見や生徒のアンケート、教職員による自己評価を踏まえ、教育活動の見直しと改善に努め、また新年度の教育活動の検討を進めているところです。ご協力ありがとうございました。

No.	評価内容	評価割合				良傾向 回答合計
		4	3	2	1	
1	お子さんは、将来の職業や自分の進路について、以前より考えるようになっている。	34.5%	44.4%	17.6%	3.5%	78.9%
2	お子さんは、予習や復習に取り組むなど、意欲的に授業に参加している様子がある。	23.9%	51.4%	19.7%	4.9%	75.4%
3	お子さんは家庭学習(塾などでの学習も含む)に積極的に取り組んでいる。	23.9%	49.3%	20.4%	6.3%	73.2%
4	AIドリルなどの学校の学習サポート事業はお子さんの学習に役立っている。	12.7%	54.9%	22.5%	9.9%	67.6%
5	学校は、積極的にいじめ防止や早期解消の取組を行っている。	37.7%	48.6%	11.6%	2.2%	86.2%
6	教員は、生徒の話を聞いたり、悩みに答えたりなど、相談にしっかり対応している。	45.4%	44.0%	7.8%	2.8%	89.4%
7	お子さんは、あいさつや場に応じた言葉づかいをしている。	45.8%	47.9%	5.6%	0.7%	93.7%
8	お子さんは、校則や校外生活のきまりを守って規則正しい学校生活を送っている。	51.1%	41.1%	5.7%	2.1%	92.2%
9	学校は、行事や生徒会活動を充実させ、生徒が意欲を持って生活できるようにしている。	41.4%	50.7%	6.4%	1.4%	92.1%

No.	評価内容	評価割合				良傾向 回答合計
		4	3	2	1	
10	お子さんは、部活動に参加することで、成長が感じられる。 (お子さんが入部しているご家庭が回答)	76.0%	19.2%	0.8%	4.0%	95.2%
11	お子さんは、周囲とかかわりを持ち、よい人間関係をつくろうと意識している。	51.1%	44.7%	2.8%	1.4%	95.7%
12	お子さんは、家庭で新聞や本などの読書に取り組んでいる。	9.9%	27.7%	38.3%	24.1%	37.6%
13	お子さんは、SNS やゲーム、動画視聴をはじめとしたインターネット環境を使用する際、家庭でのルールを守っている。	29.1%	38.3%	27.0%	5.7%	67.4%
14	「よくわかる三中校区小中一貫教育」や、学校だよりやホームページなどで発信される情報で、小中一貫教育の様子がわかる。	32.1%	55.0%	10.0%	2.9%	87.1%
15	学校だよりや学級通信、学校ホームページやテト、マチコミメールなどで学校の様子がわかる。	47.9%	45.0%	5.7%	1.4%	92.9%

○保護者の皆様のご意見から

- ① 「子どもが成長・変化したこと」の記述らんでは、どの学年も「意欲的に学習するようになった」「目標を持って勉強するようになった」「自主的に学習するようになった」「家庭学習が長くなった」「計画的に勉強するようになった」など、家庭学習によく取り組むようになったことが窺える記述が多くありました。一方で「小学生の時はきちんとできていたのにできなくなった」「進んで学習に取り組んでいたのにやらなくなった」という記述も散見されるため、家庭学習に関する取組が依然として課題となっています。家庭学習を充実させる取組として「フォーサイト手帳」に取り組んでいます。来年度も継続します。また、生徒が持ち帰っているパソコンでAIドリルができますので、家庭学習にお役立てください。
- ② 校舎の古さ・寒さ、教室の狭さについて、ご指摘をいただいております。市と市教育委員会に皆様の声は伝えています。
- ③ 授業について、教え方がわかりにくい、特定の教科で男子生徒が騒いでいるようで迷惑だ、とのご意見をいただきました。今後も生徒の興味関心がわくような授業を続けるとともに、今年度から授業改善の一環として全校で取り組んでいる、生徒が授業中に対話をする機会を多く設定することを来年度も継続します。その際、話し合いのルールを徹底させていきたいと考えています。